

Akira Chino

ハワイ在住のネットワーク・ジャーナリスト。ハワイの情報を日本に紹介する「ハワイ・ネット」をPC-VANに開設している。
chino@pcvan.or.jp (Japanese Kanji)
akira@lava.net (English)



最終回

グラフィケー知野の ジャパン・バッシング

2



最近、続々とアメリカの銀行やクレジットカード会社などの金融機関がネットワーク上で情報提供や一部のトランザクションサービスを始めている。3年間アメリカに住んでみて、日米の銀行のあり方には相当の大きな差があることを身をもって体験しているので、こうした背景を交えながらオンラインでのバンキングサービスの一部をご紹介します。

銀行とクレジットカード

つい最近、日本でもおなじみのアメリカン・エクスプレスが顧客向けにExpressNetというサービスをアメリカ・オンラインで始めた。これはアメックスの個人カードを持っていないと利用できないサービスであり、筆者はコーポレートカードしか持っていないため残念ながら内容までは見る事ができなかった。だが、メニューから推測すると、残高照会もできるようだし、顧客向けだけのイベントや特別サービスなども用意されているようだ。ところで、このアメリカン・エクスプレスカード、実はクレジットカードではない

ということをご存じだろうか？ 詳しくはマスターカードのホームページ（<http://www.mastercard.com/>）に解説があるのでそちらを読んでいただくとして、要はアメックスはその月に使った分を翌月一括で払わなければならないのでチャージカードと呼ばれ、月額最低の支払い金額が決まっていあとは支払い金額は自由というクレジットカードとは違う。逆に、デパートや小売チェーンなどで発行している買い物カードは分類上クレジットカードである。ほかに、銀行の預金見合いのカードで使った分はすぐに自らの預金から引き落とされるのにも見た目も実際の買い物でも普通のクレジットカードと全く同じように通用するデビットカードというものもある。銀行のATMカードが多くのスーパーやガソリンスタンドなどで使えるなど、カード社会アメリカのプラスチックマネーはなかなか奥が深い。

一方、アメリカはチェックの国でもある。家賃、電気・ガス、電話代からクレジットカードの支払いまでおよそ請求書と名のつくものにはチェックを送るのが原則だ。日本のような銀行引落しや銀行振込みというシステムもないことはないのだが、あまりポピュラーではない。第一、アメリカの銀行の窓口と

いったらおよそ日本のイメージからかけ離れたいれ加減さであり、できることならなるべく窓口には近づきたくない。筆者も為替送金が行方不明になったり、ATMでの入金が記帳されなかったりといったトラブルを数多く経験しており、最近では預金する以外には窓口に行かないことにしている。コンピュータやネットワークを使ってこのチェックを送るシステムもかなりあるところが日本とはだいぶ違うだろう。

ネットワークとバンキング

こうした窓口業務のいれ加減さとATMやテレホンバンキングの歴史を考えあわせると、銀行がネットワークを使ったサービスに積極的なものもあざけ。試しにインターネットのYahooというサービスを使って[Bank]でキーワード検索をかけてみたら、なんと180件もリストアップされた。アメリカだけではなく、カナダ、オーストラリア、香港などの銀行に混じって懐かしい日本の富士銀行のホームページもあって、ちゃんと日本語・英語のバイリンガルになっているところは大いに好感を持った。180件といってもこのように外国の銀行もあつたり重複リストアップもあつたりで、アメリカの銀行はせいぜい100足らずだと思われるが、それにしてもかなりの数である。

すべてのサービスにアクセスしてみたわけではないが、実際にトランザクション、すな

アメリカの銀行やカード会社は
ネットワークの利用に**熱心!**



わち残高照会なり、資金移動なりができる銀行はまだほとんどないようである。中にはページがあるだけで中身が何もなしなどという銀行もあるが、ホームバンキングの草分けであるカリフォルニアのウェルズ・ファージ銀行は「インターネットで残高照会を」という売り文句を掲げていた。また、日本でもおなじみのシティバンクではパーソナルチェックの注文を受け付けるコーナーを設けているが、ほかはほとんどがただの情報提供サービスであり、オンライン版顧客向けパンフレットという趣である。

家にいながらにして、パソコンで預金をコントロールできるホームバンキングのネットワーク版に最も熱心なアメリカのネットはプロディジー。ウェルズ・ファージ銀行をはじめ、23の銀行がサービスを提供している。プロディジーのシステムがユーザーの地域属性を見てサービスにアクセスさせるようになっており、残念ながらハワイの銀行が提供していないため、筆者はこのプロディジーのホームバンキングに実際にはアクセスできないのだが、他行のメニューを見ただけでもなかなかよくできている。このネットワーク版ホームバンキングはアメリカでもまだそれほどの歴史があるわけではなく、3年ほど前にウェルズ・ファージ銀行に取材に行ったときにはまだ全米で数行という話だったので、せいぜいここ数年の話であろう。いずれも毎月いくらかの手数料を徴収し、残

高照会、口座間の資金移動、チェックの支払いなどができる。

心配なのはセキュリティ

アメリカの銀行、とくにリテール部門はどこも競争が激しくて採算を取るのに四苦八苦している。そのため窓口の人減らし、経費節減につながるATM、テレホンバンキング、コンピュータバンキングといったサービスの充実には熱心なのだが、なんといっても問題はセキュリティである。自宅のできるテレホンバンキングやコンピュータバンキングは、ATMのようにその場で強盗に襲われるといったリスクがない代わりに、パスワード盗用による不正アクセスのリスクが常につきまとう。

日本に比べればパスワード管理の重要性を知っている人の数は多いと思われるアメリカだが、銀行口座やクレジットカード管理に関するセキュリティは大きな問題となっている。大体ATMの暗証番号のようにたった4桁の数字だけでは到底安全とは言えないし、電話でのアクセスに対してはソーシャルセキュリティ番号（日本でいう健康保険証番号のようなもの）やジップコード（郵便番号）といった複数のセキュリティ対策が講じられているが、いずれも万全とは言えない。

ネットワークを利用すると、さらにハッキングの心配もある。電話のタダがけとクレジットカードの不正使用はクリミナルタイプ（悪質な）のハッカーたちの初級講座であり、常にどこからか狙われていると考えたほうが自然だ。特に、インターネットの場合、数えきれない

ホストコンピュータがほとんど無数といっているレベルのネットワークを通じて結ばれており、データがどこをどう流れているかはまったくわからない。こうした複雑なネットワークの構造を一番よく知っているのはほかならぬハッカーたちであり、質が悪いハッカーは最初から盗用を目的としてネット上を流れるデータを狙っている。先頃逮捕されて全米はもろろん日本でも大きく報じられたケビン・ミトニックは、何千枚という有効なクレジットカード番号を持っていたと言われているし、AT&Tの電話ネットワークについて彼はAT&Tのエンジニアよりも詳しく言われている。

こうしたセキュリティ上のリスクに対して、たとえばウェルズ・ファージ銀行のインターネットサービスではWWWブラウザにネットスクープを指定し、このソフトウェアが持つセキュリティチェック機能を利用している。ほかにもデータの暗号化をはじめとするさまざまな対策は講じられてはいるが、だからといって、絶対安全な方法というものは今後ともあり得ないだろう。結局、物事にはすべて両面があり、ネットワーク利用のプラス面とセキュリティ上でのマイナス面を比較して、どちらを取るかという選択がネットワークバンキング普及のカギになっている。

編集部から：先月スタートしたこの連載は、都合により今回で終了させていただきます。短い連載になってしまったことをお詫びいたします。ご愛読ありがとうございました。



DATA CHECK

..... 代表的な銀行とカード会社のWWWサービス

アメリカ		
名称	ホームページの内容	アクセス方法 (URL)
マスターカード	カードの歴史、利用ガイド、ワールドサッカー情報ほか	http://www.mastercard.com/
ビザカード	製品紹介、利用ガイド、広報資料	http://www.visa.com/
The Citibank (シティバンク)	利用案内、パーソナルチェック受け付けほか	http://www.tti.com/
ウェルズ・ファージ銀行	サービス案内、残高照会、ホームバンキング申し込みほか	http://www.wellsfargo.com/
The Bank of America	経済分析、広報資料、ホームバンキング申し込みほか	http://www.bankamerica.com/
Nations Bank	経済分析、広報資料、96年オリンピック情報ほか	http://www.nationsbank.com/
日本		
名称	ホームページの内容	アクセス方法 (URL)
JCBカードサービス	サービス案内、利用ガイド、製品紹介	http://www.cyber-bp.or.jp/JCB/
住友クレジットカードサービス	サービス案内、通信販売による決済実験	http://www.toppan.co.jp/sc-card/
富士銀行	会社案内、サービス・業務案内	http://www.fujibank.co.jp/

内容は6月12日現在



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp